

日南町バイオマス協議会の視察報告(1)-ウエルネスタウン最上町-

視察日 平成26年2月20日(木)
視察先 ウエルネスタウン最上町

視察目的

山形県の北部にあり、奥羽山脈を後背地とした最上町では、地域に豊富な森林資源をエネルギー資源として有効活用し、地域施設の冷房・暖房・給湯を行っています。

森林を整備し、管理していく上で必ず発生する間伐材に燃料としての付加価値をつけ、エネルギー資源の地産地消を実現しようとするものです。今回、日南町より最上町の事例を視察に行ってみました。



町の概要

- 地勢 カルデラ地形 330平方キロ
(日南町340平方キロ)
- 人口 9,800人
(ピーク時19,000人、30年後推計5,500人)
- 高齢化率 45%
- 産業 主たるは農業(米、アスパラ、ニンニク)、畜産(牛、以前は馬の産地であった)、たい肥活用しアスパラ栽培が盛んになってきてアイターンの参入者がある。
- 森林情報 町域の67%が森林、人工林3,500ha、天然林2,000ha
昭和47年から50年にかけて行った団地造林(1,240ha)が35年を迎え、間伐が必要になった。町長の「森の力を活用するまちづくり」実現のための事業である
製材所は最盛期8社今は3社
- 感想 実質的に町が動き、町の事業として取り組んでいる。



効果等

重油使用で年40百万円だったが、24百万円の減額となった。
雇用 5人のプラスとなった。

バイオマスタウン構想全体の仕組み

山主の了解をとり、間伐搬出材をチップとして燃料供給している。
山主へ収入なし、間伐による山の整備がメリットとなる。
間伐補助金は町が受取り、事業にあてる。
一部には不同意もあったがおおむね了解された。
資源量は40年ぐらいいは事業継続できる(以降、主伐に入っていく)
国有林から申し出があったが、町の民有林整備が最優先との考えで見送っている。将来は活用することになる。